

県議会の自公真、県民の願い踏みにじる 柏崎原発再稼働の是非を問う県民投票条例案、否決

東京電力柏崎刈羽原発の再稼働をするかどうかは県民の声を聞いてほしい、というごく当たり前の願いがまたしても踏みにじられました。新潟県議会は18日、東京電力柏崎刈羽原発の再稼働の是非を問う県民投票条例案を自民、公明、真政にいがた（全部で36人）の反対多数により否決したのです。賛成したのは未来にいがた、リベラル新潟、馬場秀幸議員の16人でした。

今回の県民投票条例案は、市民団体「柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会」が直接請求したものです。請求にあたって同会は14万3196人分の署名を集め、条例制定におき大きな盛り上がりをつくっていました。

下段は馬場議員の討論における「自公など反対派の反対理由への反論」を簡潔にまとめたものです。

知事意見は理屈として成り立たない



知事は「二者択一」の投票では効果が限定的で多様な意見を聴けないと言うが、国から同意を求められているのは、危険な原発と住民の生活を共存させていいかということに単純明快、二者択一的な問題だ。「直接請求の意義を重く受け止める」としながら、県民の意思確認をまったく明らかにしない知事の姿勢は、誠実ではない。

「自由闊達な議論ができなくなる」はおかしい



今回の住民投票結果には法的拘束力がない。影響力はあるかもしれないが、少数でも堂々と論陣を張るのが政治家であり、みなさんはそれができるはずだ。議論が出来ないというのは憶測の域を出ない。

損害賠償責任は発生しない

同意を前提とした安全協定は公法契約の一つで諾否の自由がある以上、損害賠償責任が発生するわけではない。



投票の重みは原発からの距離と関係ない



「原発からの距離の違いで投票の重みに違いがあるのでは」という意見があった。国が同意を求めているのは、自治体としての県だ。放射性物質の拡散、風評被害などが広範囲に及ぶから、県民一人ずつ一票を持つことは不合理ではない。



巻町での賢明な判断を思い起こせ

巻町では、住民のしこり、判断があったかもしれないが、住民投票を実施した。その後、中越地震、中越沖地震、福島原発事故が遭った、結果的に住民は短期的な利益（原発立地による恩恵）よりも長期的な利益（孫子の代も考えての安定した生活）を優先して賢明な判断をした。この事実の重みこそが、参考人の「住民投票になじまない」との理屈には根拠がないことを示している。



4月21日、吉川区のコウノトリの親子です。3羽のヒナを見つめる親鳥（写真はオス）とエサを催促するヒナたち。一番遅く誕生したヒナも小さいながらエサを与えてもらったときは競争に加わります。

【イワウチワ】（再掲）イワウメ科の多年草。漢字で、「岩団扇」と書きます。初めて出合ったのは安塚区の菱ヶ岳登山の時でした。まだ雪が残っていたころ、この花を見ると「春だな」と思ったものです。花期は4月から5月。花は薄紅色です。花の形は名前の通り、団扇の田たちをしています。花言葉は、「春の死者」「適応力」。5日、撮影。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2201 2025.4.27
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八四八回

おにぎり

このところ、悲しい知らせが続きます。先週の金曜日には、Kさんから携帯電話をもらいました。あのー、利子さんなんだけど……。そこまで聞いて、すぐに「亡くなったの」と言葉を発してしまいました。

利子さんはわが家が尾神にあったころ、わが家のすぐ下の家で育った人です。私の父よりも四歳下でしたから、誕生日が来て九四歳だと思えます。

電話をもらった時に、亡くなったと思ったのは、昨年、利子さんが入所していた特別養護老人ホームの祭りで見かけたとき、だいぶ弱ったなと感じていたからです。もう一度、会っておきたいなと思っはいましたが、新型コロナウイルス感染症が再び流行っているなどの情報もあり、迷惑をかけるられない、暖かくなってからにしようと思っはっていました。

利子さんは、同郷だったということもあって、吉川区の旭地区に住んでおられても、ずっと私のことを気にかけていてくださいました。今でも忘れることのできない思い出がひとつあります。

それはいまから四十年前前のことです。たぶん五月だったと思うのですが、吉川町長選と町議の補欠選挙があり、利子さんの町内会の公民館を借りて、演説会を開催しました。演説会が始まる少し前に雑談していたら、利子さんが、「おまん、まだ夕飯食べてねえがねかね」と訊いてくださったのです。「まだです」と言ったら、すぐに会場を出て、近くの家に戻り、おにぎりを持参してくださったのです。

そのときのおにぎりに何が入っていたかなどはすっかり忘れてしまいました。が、とても美味しかったことだけはよく覚えています。正直言って、その時の選挙戦は大激戦で、連日連夜、各町内会を回っていました。夕飯をゆっくり食べる余裕はまったくありませんでした。そこらへんは利子さん

もよくわかっておられたのだと思います。私は遠慮なく、会場でおにぎりを食べ、元気に演説に臨んだのでした。

利子さんが私のことを気にかけていてくださったと書きましたが、その証拠のひとつは、私が四十年前から毎週発行しているレポートをそれこそ隅から隅まで読んでいただかったことです。

驚いたのは、特別養護老人ホームに入所してから読み続けておられたことです。自宅に住んでいた時と違って、施設に入れば新聞折込された私のレポートは読むどころか入手できないと思っはしていました。でも、そうではなかったのです。介護のスタッフの方にお願ひされていたのでしょうか、ずっと読み続けていてくださったのです。そのことを知ってからは、この「春よ来い」に利子さんにとっても懐かしい出来事を意識して書くようにしていました。

葬儀の当日、私は議会の会議と重なっていません。Kさんには、議会の用事があるから無理かもと言っはたのですが、やはりもう一度会っておきたいという気持ちを抑えることはできませんでした。会議は仲間の議員と代わってもらい、参列することになりました。

大湊区にある「虹のホール おおがた」の式場に着いて焼香を済ませたとき、女性二人、私のそばに来てくれました。利子さんの娘さんです。長男のカズちゃん、葬儀以来の再会でした。最初、誰かと思っはたのですが、電話だけは何度もしていますので、声を聞いてわかりました。

二人とは、短時間で話ができました。そのなかで、「(四十年前に)お母さんからおにぎりもらったんだよ」と伝えました。そして、「こんだ、カズちゃんとも会えるね」と話して、棺の中に私のレポートの最新号を入れさせてもらいました。私からの最後の感謝の気持ちです。

『ランラン凍みわたり』がYouTube動画に

コミュニティバンド・ピアスが3月、柿崎コミュニティプラザで能登半島地震被災者支援チャリティライブを行った際、話題となった、『ランラン凍みわたり』という歌、このたび、YouTube動画としてアップしました。

この動画を見た人からは、「とってもいい曲ですね。軽やかで楽しく、なんだか笑顔になります」「ほのぼとした楽しい歌で、NHKの『おおかあさんといっしょ』で歌われても良いのではと思いました」などの感想を寄せていただきました。ありがとうございました。

右のQRコードから歌に入れます。



コスモフィッシュのコンサートへ

高田仲町の食堂喫茶・「マリキータ」でコスモフィッシュのコンサートが行われました。

私の大好きな曲、杉みき子さん作詞・大塚進さん作曲の『朝市』、山田護さん作詞・川合徹人さん作曲の『春』などを聴いてきました。



「しんぶん赤旗」日曜版の今号は、27日号と来月4日号の合併号です。次回は5月11日号です。

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月16日(水)	4月23日(水)
上越消防署	0.053	0.053
上越南消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.053	0.057
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.057	0.057